

# まつど MATSUDO MUSEUM ミュージアム

松戸市立博物館情報誌

## ●コレクション紹介 下総国分寺跡出土の瓦



下総国分寺跡から出土した瓦です。天平13(741)年、聖武天皇は全国に国分寺の建立を命じましたが、下総国では現在の市川市に国分寺が造営されました。

さて、当時の宮都や国分寺では、軒丸瓦に蓮華文、<sup>のきまる</sup>軒平瓦に唐草文という文様の組み合わせが普通でした。ところが下総国分寺の瓦は<sup>ほうそうげもん</sup>宝相華文と呼ばれる非常にめずらしい文様をもっているのが特徴です。宝相華文は唐で出現したデザインと考えられ、新羅では瓦の文様として流行しました。しかし当時の新羅と日本は緊張関係にありました。そのため下総国でこの瓦が用いられた背景を探ることは、東アジアの国際情勢や古代の地域社会の実態を解明するうえで重要な手掛かりとなるでしょう。

これらは平成22年に下総史料館から寄贈された資料の一部です。3月6日からの資料展「下総史料館寄贈資料展」にご期待ください。

上：宝相華文軒丸瓦 下：宝相華文軒平瓦



# 下総史料館を ご存じですか。

下総史料館は松戸市紙敷にあった私設の博物館です。  
館長の湯浅喜代治さんが自宅の敷地内に私財を投じて設立、  
考古学の研究・活動の場として多くの功績を残しましたが、2005年に閉館。  
この度、史料館が長年にわたり収集してきた資料が  
当館に寄贈されました。本展ではその一部を公開します。



**下** 総史料館の歴史は古く、紙敷郷土資料室(1948年)の開設から始まります。その後、下総史料館と名称を変更しました。

史料館は湯浅さんが収集した考古資料等を展示するだけでなく、湯浅さんが所属した考古学研究グループ～下総考古学研究会～の研究活動の場として、また、地域の子供たちが集い郷土史を学ぶ場としての活動を続けてきました。更に、講座・講演会等を催し、考古学の研究成果を普及させることや、郷土史の理解を深める活動も行ってきました。

このような活動が認められ2003年には千葉県博物館協会から顕彰されました。

● 下総史料館のあゆみ(抄)

- 1948(S23) 湯浅氏自宅内に、紙敷郷土資料室を設立
- 1965(S40) 旧館完成、下総史料館と名称変更
- 1974(S49) 新館完成、特別展「大昔の紙敷—中峠村の人と生活—」開催
- 1975(S50) 博物館相当施設に指定される
- 2005(H17) 閉館
- 2006(H18) 湯浅氏死去、享年82歳



須和田遺跡出土  
土師器

須和田遺跡出土  
墨書土器

中峠遺跡出土  
縄文土器

四耳壺

通い徳利

市原市内出土  
縄文土器

## 寄贈された多くの資料の中から、一部を公開。

考古資料・民俗資料・歴史資料が当館に寄贈されました。このなかでも考古資料は大量で、旧石器時代から近世にわたる、1,047件(13,792点)にもものぼります。今般ようやく資料の登録作業が終了し、公開できることになりました。本展では寄贈資料の一部をご覧ください。

平成21年度資料展

# 下総史料館 寄贈資料展



題字：下総史料館看板  
(奥山儀八郎制作)文字を使用

3月6日[土]～6月6日[日] 開館時間 / 9:30～17:00(入館は16:30まで)  
休館日 / 毎週月曜日(祝・休日の場合は開館し翌日休館)、館内整理日(毎月第4金曜日)

## 下総史料館寄贈資料の整理と公開

学芸員 大森 隆志

松戸市立博物館に寄贈された考古資料は、旧石器時代から近世にわたる、1,047件(13,792点)です。資料の主な出土地・採集地は松戸市内ですが、なかには北海道や長野県で採集された資料もあります。

このような時代や地理的に多様な資料の登録作業が今般ようやく終了し、展覧会で公開できるようになりました。しかし、これで寄贈資料に関する全ての作業が終了したわけではありません。博物館資料としてこれから活用し保存していくための整理作業を行わなければなりません。具体的には、資料の写真撮影や

詳細な観察記録の作成などです。資料を詳細に観察・分析するには、類似資料の調査一文献で調べるだけでなく、博物館や埋蔵文化財センターなどで実物を観察すること等一や新たな学習が必要になる場合もあるでしょう。長期の作業になりそうです。

下総史料館から寄贈された資料をもとにした展覧会は二回催されます。一回目は3月6日～6月6日の、資料展「下総史料館寄贈資料展」で、二回目は企画展(仮)「湯浅コレクション展」(10月9日～11月28日)です。展示資料の多くは従来も史料館で一般に公開されていましたが、当館への寄贈により更に多くの方々にご覧頂けると思います。なお、企画展では他館からの借用資料等も併せて展示して“湯浅コレクション”の特徴をわかりやすく理解できるよう計画しています。

## アンケートボックスの中の声

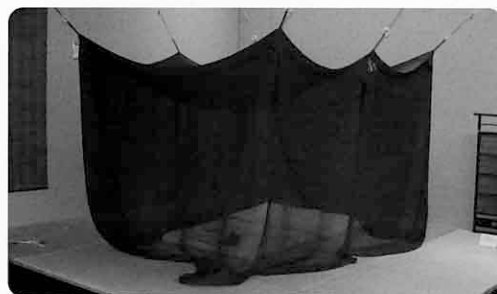
今回は以下のようなご意見をいただきましたので、お答えいたします。

〈学習資料展「昔のくらし探検」に対する改善の要望〉  
体験コーナーをもっと肌で感じるようにしたら良いと思います。  
(20代・男性)

★他にも体験コーナーに対する評価や意見が、数通寄せられています。

博物館より：貴重なご意見、ありがとうございます。学習資料展「昔のくらし探検」は、毎年8月から9月にかけて小学校4年生の社会科の学習に対応して開催している展覧会です。この展示では、体験コーナーを重視し、博物館のスタッフ「昔のくらし探検隊長」が、蚊帳や肥桶などの体験コーナーのインストラクターを務めています。しかし、多数の方がご来館する日曜日などでは、十分な解説や体験の見本が演じられないことがありました。アンケートにみられる体験コーナーの充実を目指し、市民ボランティアや当館友の会のご協力などを得て、体験コーナーのインストラクターの拡充を計画したいと考えています。

毎年開催している学習資料展「昔のくらし探検」では、パネルを新しくするなど、より良い展示につくり変えていこうと心掛けています。今後とも、どうぞご意見をお寄せください。



子どもたちに人気の蚊帳。中にはいれます。



肥桶も担ぐことができます。大人の方もどうぞ。

今後とも皆様のご意見を参考に、一層親しまれる博物館へと努力してまいります。ご協力お願いいたします。

